



〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6階 TEL.078-891-3871/FAX.078-891-3872
Eメール hyokaren@citrus.ocn.ne.jp ホームページ http://www.hyokaren.or.jp

令和元年7月1日
No.91

編集人
公益社団法人
兵庫県精神福祉家族会連合会
新銀 輝子

新任会長挨拶

新銀 輝子

平素は、兵庫県精神福祉家族会連合会に対しまして、多大なるご支援とご理解賜り、厚く御礼申し上げます

この度、平成31年3月27日理事会の決議によって選任され、米会長の後任として大任を拝しました。どうぞ宜しくお願ひ致します。

ひょうかれん法人化以来の西浦会長、本條会長、米会長の引き継ぎとなり、諸先輩方のご功績を汚すことの無い様、誠心誠意努力していく所存です。

今年度はひょうかれん50周年を迎える大きな節目の年となり、この様な意義ある年に会長を受ける意義を深く実感しております。

2006年障害者自立支援法が施行され、現在の総合支援法になってから、漸く、私たちの家族である心の病と闘っている身内にも医療だけではなく、看護、福祉を利用する権利を獲得することが出来ました。

とは言え、今も尚行われている不必要な入院時の身体拘束問題、更に精神の病について正しく理解していただくための教育問題、交通費是正の問題、他には、会員の減少による家族会の存続の問題と課題は山積みです。

その様な現状を踏まえ、会長という大任は改めて身の引き締まる思いであります。

だからこそ、様々な団体や個人との対話を積み重ね、家族だからわかること、家族にしか分からないことを情報発信していくこと、そして、ひょうかれんの会員でよかったですと思って下さるような会へ成長させることが私の役割だと思っております。

甚だ未熟ではございますが、どうぞ、ご指導、ご鞭撻賜りますようお願いいたしますと共に、就任のあいさつに代えさせて頂きます。



あなたの支援で、ひょうかれんは運営されています！



年会費

団体の場合 1口 10,000円

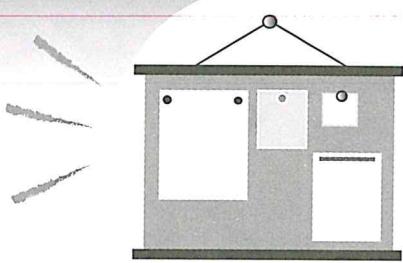
個人の場合 1口 3,000円

一口以上、何口でも結構です

振込先 郵便振替 01110-4-83568 兵家連



ご 報 告



退任挨拶

(公社) 兵庫県精神保健家族会連合会前会長 米 靖 弘

平素より兵家連に対してご支援ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

この度、私は兵家連の会長を退任させて頂く事になりました。平成27年6月に前任の本條義和氏の後任として4年のあいだ、会長の職務を勤めさせて頂きました。

大過なく勤めることが出来たのも、各家族会会長様の暖かい励ましとご協力のお陰と改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

なお、後任には精銳の新銀輝子氏の就任が予定されています。私同様にご支援ご協力を賜りますようお願い致します。今後も体力の許す限り、兵家連の一員として新会長を支えて参るつもりです。引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げ会長退任の挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

障がい者3団体の代表が井戸敏三知事にごあいさつ

恒例の兵庫県知事に対する新年の挨拶を、1月7日に兵身協の和田理事長、県育成会の井上理事長及び兵家連からは米会長が出席して、県知事室において行いました。

知事からは、昨年はユニバーサル社会づくり条例の見直し制定、施行等を行っており、更なる促進に向けた活動をお願いしたいとの要請がありました。

兵家連からは「みんなねっと兵庫大会」が大成功に催せた事と、支援を頂いたお礼を申し上げました。また、今年には「兵家連創立50周年」の催しを行なう計画との報告を行ないました。知事からは「兵家連創立50周年」おめでとう、盛大な催しを期待しているとの応援がありました。



『月刊みんなねっと』 購読のお願い

賛助会員（購読料金）の種類と年会費
個人賛助会員 : 3,600円
団体賛助会員 : 3,000円 / 人
特別賛助会員 : 5,000円 / □

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行っています。各地域の家族会が購読の勧誘に参りますので、何卒ご協力の程よろしくおねがいします。

みんなねっと兵庫大会

「兵家連」では、昨年11月26日、27日に開催した「みんなねっと兵庫大会」の記録誌が完成し、1,000円で販売中です。精神疾患の教育に関する山田先生の基調講演、みんなねっとの活動報告、厚生労働省からの「精神保健福祉の動向」の行政報告、「こころの病とはなにか」の糸川先生の特別講演、そして6分科会の全ての資料と質疑応答を含めました。

そして、閉会式や相談コーナーの紹介、アンケート調査結果等も含めています。家族会活動にも有益な情報が盛り沢山です。必要な方は、兵家連に申込み下さい。

☎:078-891-3871

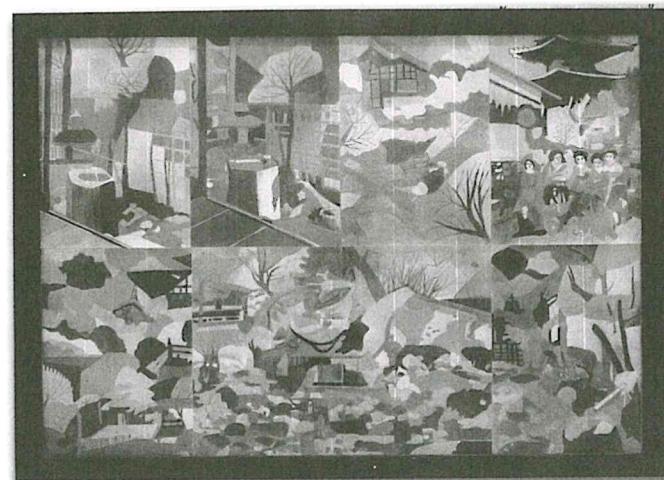
E-mail:hyokaren@citrus.ocn.ne.jp

記録誌発売中！



第14回 兵庫県障害者芸術・文化祭 「美術工芸作品公募展が開催されました」

標記の展覧会が3月1日～3日に兵庫県立美術館ギャラリーで開催されました。今年は、「絵画の部」、「書道の部」、「写真の部」、「工芸・その他の部」を合わせて、436点の応募がありました。絵画の部294点、書道の部60点、写真の部9点、工芸・その他の部73点でした。絵画の部は工夫を凝らした良い作品が多く、見応えがありました。書道の部は伸びやかで自由に楽しんでいる作品が多くありました。写真の部は、作品数が少なくて、残念でしたが、最も手軽な表現方法です。入賞機会も多いので、来年度は挑戦してください。工芸・その他の部では、作っているときの楽しそうな作者の顔が浮かんで来るようでした。来年も同じく3月上旬に県立美術館で開催予定です。



兵家連会長賞受賞作品
瀬戸セツ子 様

トピックス



兵家連創立 50 周年 記念事業近づく！

いつも精神保健福祉活動にご協力ありがとうございます。兵家連も今年9月25日には、創立50周年を迎えます。多くの諸先輩方の努力と苦労を讃えて、家族会の今後の発展を祈念する催しを盛大に開催したいと思います。大いに盛り上げるためにも、近畿ブロック大会と合同開催することとしました。詳細は下記に示します。

日時：2019年10月5日（土）13時より16時30分

場所：神戸市看護協会ハーモニーホール（神戸市中央区下山手通5丁目6番24号）

内容： 1. 来賓挨拶 兵庫県知事、神戸市市長

2. 感謝状送呈 本條前会長、多田トモ子様

3. 講演会の代わりに糸川先生（医者）と夏苅先生（医者）と中村ユキ先生（漫画家）の3人をお呼びして対談会を実施します。糸川先生は、昨年のみんなねっと兵庫大会で特別講演をお願いしました。夏

苅先生は、「心病む母が遺してくれたもの（精神科医の回復への道のり）等の著書があります。中村ユキさんは、「我が家の母はビヨーキです」等の著書があります。この著書の発表を契機に夏苅先生や糸川先生は、母親のことを公表して色々な著書を発行されました。



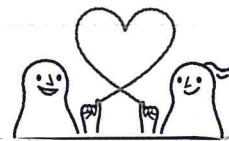
兵家連きょうだい会

開催ご案内



精神障礙を抱える兄弟姉妹・親との関わり合い方で困ったことはありませんか。当事者を持つ兄弟姉妹・子供の立場の人は、次の第1ステップから第4ステップの経過を辿ることが多いと言われています。第1「戸惑い・否定」病気に対する思い。第2「混乱・怒り・拒絶」きょうだいに対する思い。第3「あきらめ・割り切り」イライラしても事態は好転しないことに気付く。第4「受容」病気の症状を客観的に見ることができるようになる。兄弟の健康な部分にも目が向くようになるので家庭内も明るくなる。といった具合です。心の病は決して特別な病気ではありません。五大疾患に入った「精神疾患」は、いつ誰が罹患しても不思議では無くなりました。精神医療に関する教育の必要性、国民全体の問題であることを強く感じています。精神疾患に対する正しい理解、情報を誰もが当たり前のように知っていれば、医療や福祉のあり方は大きく変わるといます。親亡き後を考えるのは兄弟姉妹にとっても悩みです。ほっとして肩の荷を下して語り合いましょう。誰にも話せなかった思いを外に出すことはとても大切なことです。皆様のご参加をお待ちしております。

トピックス



「きょうされん」からのお便り

きょうされん兵庫支部事務局長 松本 多仁子

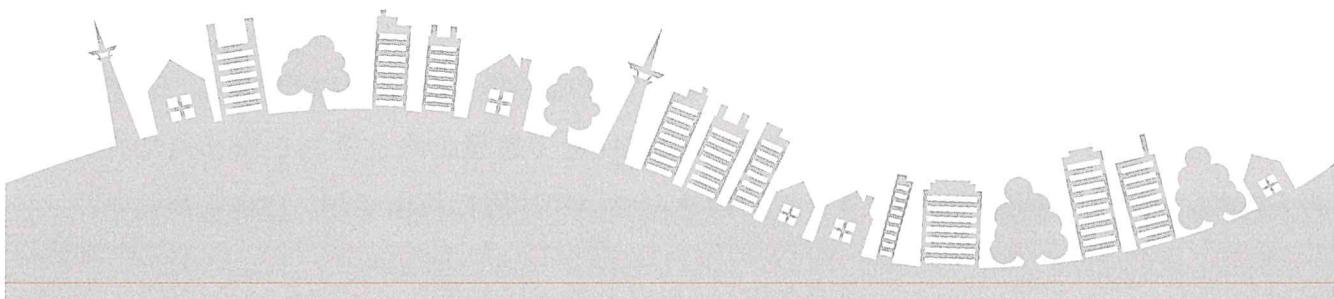
「きょうされん兵庫支部」は、去年の11月開催の「みんなねっと兵庫大会」に参加させていただき、多くのつながりと学びを得ることができましたこと、感謝申し上げます。兵家連の皆様のご活躍に触れ、改めて皆様の「障害のある人たちのその人らしい当たり前の暮らしができる社会にしたい」という思いに学ばせていただき、また大会成功へのご熱意とご奮闘に感動いたしました。本当にありがとうございました。

「きょうされん」(旧：共同作業所全国連絡会)は、全国で16か所の無認可作業所からはじまり、42年目を迎えます。兵庫県でも、無認可の小規模作業所がぽつぽつと生まれ、それがあつという間に広がっていきました。阪神淡路大震災のころには「地域で行く場のない障害を持つ仲間の働く場・集う場」として県内に多くの無認可作業所が生まれていきました。当時「きょうされん」は、無認可作業所の貧しさは国の制度の不備であり、どんな障害があつても、その人らしく働き暮らせる障害者福祉制度の充実を訴え続けてきました。

全国の加盟事業所は、就労の場、暮らしの場、相談の場、活動の場、居宅介護、放課後デイなどの事業所約1900か所となり、兵庫支部は、74か所の事業所が加盟しています。

私たちは今、会員アンケートをもとに、障害者雇用の実態、優生保護問題、暮らしの場の確保、職員の人手不足、報酬改正問題、日割り単価問題、災害時の問題などについて兵庫県と神戸市、県下の中核市に要望を上げています。また、ドキュメント映画「夜明け前～吳秀三と無名の精神障害者の100年～」、東日本大震災をテーマに制作した劇映画「星に語りて～Starry Sky～」の上映活動、第42次国会請願署名・募金に取り組んでいます。

これからも、効率化、成果、評価ばかりが求められる社会ではなく、自立支援法訴訟の基本合意、総合福祉法骨格提言、国連障害者権利条約の完全実現を求め、誰もが、人として当たり前の権利を享受できる社会のシステム(制度)とそれをつくり実行する責任(公的責任)を求めていきたいと思っています。これからもぜひ共にと願っております。





精神科医療を問う父の闘いから ほのぼの会会長 伊東 久雄

ドキュメントTV「あるボクサーの死」に衝撃

去る兵庫大会直前25日深夜のMBS18ドキュメント録画を見て、衝撃を受けた。世界チャンピオンを目指していた武藤通隆さんは、将来がかかる試合で負けて次戦に向けたトレーニング中、一時的な精神的混乱におち入り2016年2月に精神科を受診、統合失調症と診断された。3ヶ月予定の入院は2週間に短縮され、症状が改善しないのに医師は退院強制した。父は再入院を病院へ要求したが断られ、本人は希死念慮から受診から僅か二ヵ月で自殺。壁に貼られた紙に「すべては現実に起きたこと、死んだら死ぬぞ」---幻聴などに抗ったらしい気持ちが書かれていた。この経過が腑に落ちなかつた父は、自殺予防の注意義務違反として、2018年病院を訴訟した。医療費削減のため厚労省は入院期間の短期化を促進し、入院報酬をその期間によって次第に減らし、病院経営上、治療より退院を促進することになる背景があると取材している。父親は息子の死を無駄にしたくないとの想いから、「社会にこの不条理を少しでも知つてもらえたまう」と冷静に語った。ああ、虚しすぎる通隆さんの命---彼の父の勇気で感動する。

医療基本法による患者の権利確立へ

兵庫大会で「声を挙げよう」と会場に呼びかけた、みんなねっと理事長本條氏に「医療基本法」制定に患者団体と連携しませんかと意見した。患者団体の一つ「患者の声協議会」代表世話人長谷川さんは、「患者や家族の声が医療政策に反映されていない根本に、基本法不在がある」と訴える。上記の悲劇は彼女が言う「時代の変化の中で、医療が患者の望まない形に変えられる怖さ」を例示しているのでは? 患者団体は「患者本位の医療、国民参加の政策決定」等の患者の権利の実現、日本医師会は「医療者と患者の信頼関係に基づく医療の実現」等の基本法案を提示、全日本病院協会等も基本法制定に動く。この流れを受けて超党派議員連盟が発足、2019年の通常国会に法案提出へと報道された(2018.9.12「毎日新聞」)。

命を守るために

希死念慮、自死未遂、自死は哀しいかな、私たち家族の多くは身近に経験する。それを防ぐために私たちは何をすべきだろう? 何より精神疾患の患者の命と権利を護るための家族会「みんなねっと」・兵家連であるはずです。皆さんはいかが思われますか。(19.2.8記)



「『どりー夢』と出会って」

どりー夢 稲野 元孝

僕が39歳の時父が亡くなり、3年後には母も亡くなって、43歳で僕は一人ぼっちになりました。

母は、体が不自由な僕が一人になっても困らないようにと家事を教えてくれていたので、炊事や洗濯などは、一人になっても困りませんでした。

でも一人で暮らしていると、不安で、悲しくて、その上さびしくて、うつ症状がひどくなっていました。

そんな時僕がうつ病だということを理解してくれる人が周りにいなくて、さらにきつい言葉をかけられて一層落ち込みました。

うつ症状が続いてくると、孤独でつらくて、生きていても仕方がない、死んでしまいたい、と何度も思うようになりました。

不安やストレスがたまつてくると、僕は仏壇のお供えのお菓子を食べまくることが多くなってきて、半年で10キロも太ってしまい、体重が増えると歩きにくくなつて、足がもつれてこけてしまうこともありました。そんなことが何度か起こると、ますます気分は晴れず、落ち込んでいきます。

やけになつたり、気持ちが沈んで死にたくなつたりした時にそれを留まらしてくれたのは親の存在でした。「そんなことを考えてはいけない、そんなことをしたら天国の両親が悲しむ。」と思い、早また思いを立ち止まらせることができました。今でも親に見守られているように感じます。

どうしたらいいのかわからない書類が来た時には、障害者福祉センターで話を聞いてもらい、サポートを受けるようになって、気持ちが楽になります。

ある時、福祉センターのスタッフから、地域活動支援センターを紹介してもらい通り始めました。そこは精神障害の人が通う支援センターで、うつのことを理解してくれる仲間がいます。病気のことを分かってもらえた時はうれしくてほつとしました。

僕は、周りの環境で、ストレスがかかると、落ち込むことがよくあります。ちょっとしたことでも、心に引っかかると、落ち込んでしまいます。

でも、そんな時は、分かり合える「どりー夢」の仲間と話をしていると、徐々に回復してきて楽しく安定した気分で過ごすことができるようになり、新しい世界が開けたように思います。



止まつた時計

兵家連賛助会員 窪田 潤子

30年前、親戚の息子が、精神病院に入院させられていた。厳しい受験勉強を終えて、希望の高校に入学した彼は、その疲れが出たのか、授業中に、父親の気配を感じると、言った。

落着かない彼を、校医が精神病院に入れるのには、時間はかからなかった。

入院すれば治るものと、両親は全快して帰ってくる日を待ちにするが、二年が経過しても、病状は重くなるばかりであった。

そんなある日、担当の看護師の「お家で 看てあげたらどうですか、この人なら大丈夫ですよ」のひと言で、親は、彼の自宅介護を決心する。

その介護を、私が引き受ける。

以来、精神障害をもつ人達そして家族の方々とのつき合いが始まる。

30年をふり返ってみて、その人達を取り巻く医療、福祉が、すこしも進歩、改善されていない事に、怒りを覚える。

現在も「発達障害」という名の許に、子供達が恐ろしい環境に立たされています。

落着きのない子に簡単につけられる病名それを疑うこともせず、医師からの抗精神薬を飲ませる親達。

本来、発達障害でない子供達が誤って診断されています。

そのまま、精神障害者として成人し、入院、退院しても、障害者としての生活を強いられ、高齢になり認知症患者として介護施設で生涯を終えるとすれば、その人生に対して責任を負うのは、誤った判断をした医師と医師を信じた親ではないか。

犠牲者の裾野は拡がっています。

「家族会」の高齢化が問題となっていますが、現在の医療体制の中で、子供達を救えるのは高齢化したといえども、親しかありません。

精神医学会も、日本型、ドイツ型、アメリカ型と分かれており、日本は、多剤投与型治療と言われています。

食事によって人間本来の免疫力を高め、運動によって体力をつけ、人の対話によって気力を回復させる治療法を模索してみたい。「家族会」の力で、「止まつた時計の振り子」を、動かして欲しいのです。

精神科救急窓口のご案内

平 日：午後5時～翌日午前9時

土・休日：午前9時～翌日午前9時

《平日昼間は健康福祉事務所へ》

◆ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に告げてください。



精神科救急情報センター

電話番号

078-367-7210



兵庫県精神保健福祉士協会 PSW

11月26・27日みんなねっと兵庫大会時・心の相談コーナーより

質問

障がい者が時折、親に対して暴力を振るう、室内の道具を壊したり、場合によっては刃物を持ったりする場合もまれにある。世間を気にして大げさにせず、なだめではいるが、良い対応策を教えてください。

回答

精神障がいのある方からの暴力を経験されたご家族は、対応にとても苦慮されていることと思います。我々も心苦しく思うことばかりです。結論から言いますと、暴力が頻発するようであれば、家族以外の第三者の方の介入が不可欠になります。

暴力行為は、病気や障害に関係なく、「嗜癖行動」です。自分で抱えた不甲斐なさを、暴力という短絡的な形で処理することを学習した結果なのです。一度、そのような学習をした人は、些細なことで暴力を振るい、促進します。したがって、加害者への対応策として、第一に、事前に暴力の前触れを掴んでおくことです。乱暴な言動などの暴力の前触れがあれば、家族から説得や助言など積極的介入は止めましょう。かえって相手の怒りを煽ってしまいます。その前に、話を深めず、話題を変えるか、本人と距離を取る対応を行いましょう。

第二に、暴力が頻発する場合、身の安全の確保が最優先です。加害者は、この程度なら「家族は受け止めてくれる」という思い込みや期待があり、過去の暴力基準に行動します。ですから、目の前で起こりつつある暴力は、以前と同等かそれ以上のものが来ると心得てください。

そこで第三者の介入が不可欠になります。ただ、騒ぎにしたくありません。ですが、第三者の介入を遅らせると不測の事態を招きます。ですから、事前に近所の住人たちや最寄りの交番に事情を説明しておくことをお勧めします。特に警察に相談しておくことで、重点的に巡回し、怪しい物音があれば立ち寄ってくれます。何より通報時に、情報を把握していれば速やかに対応してくれます。そして、警官から加害者に「あなたが怒るのは分かるが、この行為は社会的に許されない」と明確に注意してもらうことで、加害者の暴力の抑止力となります。

安全で平穏な生活が送れるように、家族だけで暴力対応をなさらず、第三者の助けを活かしていただきたいと思います。

お気軽にご相談ください
ひょうかれん電話相談

TEL. 078-891-3886

ハロー

土・日・祝日を除く平日 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00

病気の事や経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（手帳・年金・他）利用の手続きなどについて、県から相談員として委嘱された家族会員や精神保健福祉士などが相談に応じます。ぜひご利用ください。

兵家連電話相談室H30度実績報告(障害者110番) 平成30年度担当者:23名

①月別延べ 相談数	
4月	118
5月	73
6月	94
7月	83
8月	61
9月	66
10月	61
11月	65
12月	82
1月	70
2月	72
3月	60
合計	905件
※月平均 約75件	

②男女比	
男	女
245	660

③当事者割合	
当事者	家族等
613	292

④年齢別件数	
20歳未満	0
20歳代	60
30歳代	141
40歳代	253
50歳代	117
60歳代	238
70歳以上	63
不明	33

⑤地区別件数	
神戸市	542
阪神南	131
阪神北	46
東播磨	66
北播磨	20
中播磨	8
西播磨	10
但馬	0
丹波	21
淡路	10
県外	14
不明	37

⑥相談内容別件数	
家族・家庭	416件
人生・家族	284
家庭生活	110
その他	22
法律 68件	
家族問題	35
財産・金銭	13
事故・賠償	3
人権	12
その他	5
経済・生活 134件	
生計	18
所得保障	10
年金・手当・恩給	35
税金	5
住宅・設備	8
仕事	54
その他	4
保健・医療 174件	
保健・衛生	46
医療相談	100
医療費	9
医療関係機関	11
その他	8
合計 905件	



相談員の思いあれこれ

森崎 敏子

私が相談員をさせて頂くようになってから6、7年になります。

中々相談者さんの意に沿う様なお答えが出来ずに勉強不足を恥じ入る場面も多々あります。統合失調症の息子との葛藤20年の体験が全てです。途方もなく暗く出口の見えないトンネルに入り込んで親子共々暗澹たる日々の連続でした。が、家族会との出会い。様々な講演会。研修会。勉強会を通じて色々な方々と知り合う事が出来たのが息子との対応に非常に役立っています。

と言う訳で一人で悩まないで多くの方々とつながって貰いたいと切に願わざにはいられません。親の間口と言うか世間を広げる事がひいては親亡き後の憂いを少しでも減らす事になると信じて時間の許す限り大義名分の元に出歩いています。

電話相談の方々にも当事者の事だけではなくご自身の事も大切にして頂きたいと願いながらご相談を傾聴しています。

ご協力ありがとうございました

平成30年度も下記の団体及び個人の方々が兵家連活動にご賛同いただき、賛助会員にご加入いただきました。厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(順不同、敬称略)(平成31年3月31日現在)

医療機関の部

幸地クリニック 幸地芳朗、かねだ心療クリニック 院長金田弘幸、医療法人山伍会 播磨大塩病院、
高塚クリニック 高塚勝哉、医療法人社団はなふさメンタルクリニック 理事長花房廣、
医療法人達磨会東加古川病院、ただしメンタルクリニック院長 田中禎、まつい心療クリニック 松井律子、
医療法人尚生会 湊川病院、一般財団法人仁明会 仁明会クリニック、永安心療クリニック、
牧原クリニック、いるか心療所 九鬼克俊、医療法人実風会、たなか心療内科 田中勇三、
大森クリニック 大森和広、高石医院 院長高石俊一、
医療法人社団かもめクリニック理事長 今村洋一郎、平本医院 平本憲孝、
医療法人社団清風会 香良病院、医療法人社団 隨縁会ことしろクリニック 理事長 印部亮助、
いずみ心療クリニック 谷口加容、医療法人社団造山会 まきび病院、医療法人千水会 赤穂仁泉病院、
いぬいこどもクリニック 乾幸治、医療法人全人会 仁恵病院 理事長中島宣行、
大野こころのクリニック 大野顕子、医療法人社団松下メンタルクリニック 松下寿能、
医療法人社団正仁会 明石土山病院、たぐちクリニック、医療法人さかねクリニック、
宮崎クリニック 宮崎隆吉、たつたクリニック 達田健司、花田神経内科クリニック 花田進、
医療法人社団東峰会 関西青少年サナトリューム、医療法人社団ほがらか会 理事長 高森信岳

一般団体の部

一般社団法人 赤穂市医師会、公益社団法人兵庫県看護協会 会長 成田康子、
一般社団法人 佐用郡医師会、一般社団法人兵庫県トラック協会、一般社団法人兵庫県民間病院協会、
一般社団法人伊丹市医師会 会長常岡豊、公益社団法人神戸市歯科医師会、
一般社団法人宝塚市医師会、兵庫県精神神経科診療所協会 会長 千郷雅史、
一般社団法人 i-crosso 代表理事 松岡努、垂水区医師会、一般社団法人兵庫県医師会、北家族会

法人・施設・作業所の部

NPO 法人朔の会 緒方孝子、NPO 法人あいらんど、NPO 法人庵ノ上 地域活動支援センター庵ノ上、
NPO 法人加古川マインド心のワークセンター、NPO 法人蓼の会ぐりん・どあ、
社会福祉法人かがやき神戸、NPO 法人ハートフル、NPO 法人居場所、NPO 法人くぬぎ
社会福祉法人尼崎あすなろ福祉会、NPO 法人つづじ会 地域活動支援センターゆめ工房 いまじん

個人の部

前田正英、北川泰寿、大前はるよ、寺延順市、游発順、鈴垣育子、久保田智万、多田トモ子、神澤正三、
砂子了一、安部文子、藤原秀明、中村雅宥、小林るみ子、松尾享、金田知子、木下輝治、中野幸子、
福島茂利、青木聖久、松本のり子、内藤勇次、金子友造、藤本百男、春名哲夫、三谷道文、牛丸忠夫、
芦田賀津美、しらくに高太郎、岡田ゆうじ、朝倉越子、丸尾牧、和田隆子、小河原優子、三村花、磯野博、
上村義彦、安田道子、矢内とも子、大野眞一、奥谷裕子、佐野千恵子、藤田孝夫、有野和枝、藤原武光

兵家連活動日誌 役員の動き (2019年1月~4月)

K
S
K
P

一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

KSKP 第三種郵便物承認

定価
五十円

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 15 第14回兵庫県障害者芸術・文化祭 第2回実行委員会 <兵庫県庁1号館1階A会議室> (南部) 17 みんなねっと兵庫大会第13回ワーキンググループ会議 <県福祉センター201> (米、涌波、南部、新銀、大倉、本條、佐伯、石原、新銀茂) 19 阪神南地区こころの病家族教室 <芦屋市福祉センター> (芦屋家族会) 21 いこいの場ひょうご定例会 <県福祉センター601> 24 みんなねっと兵庫大会近畿ブロック連絡会 <県福祉センター202> (酒井、松原、野地、倉町、大畠、奥田、尾畠、小幡、米、涌波、南部、新銀) みんなねっと兵庫大会第5回実行委員会 <県福祉センター202> (米、涌波、南部、新銀、本條、佐伯、石原) 28 会誌「ひょうかれん」#91編集会議 <県福祉センター602> (米、涌波、南部、伊東、代田、石原)
家族による家族学習会 担当者研修会準備会 <県福祉センター602> (河上、窪田、五十嵐、代田) 31 みんなねっと兵庫大会臨時ワーキンググループ会議 <県福祉センター602> (米、涌波、南部、新銀、大倉、河上、佐伯、石原) | <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 15 社会参加推進会議 <県福祉センター202> (米) 16 阪神地区精神保健福祉研修会 <芦屋市福祉センター> (芦屋家族会、米) 20 但馬地区こころの病家族教室 <養父市立但馬長寿の郷> (のぎく家族会、米) 21 県立ひょうごこころの医療センター運営懇話会 <県立ひょうごこころの医療センターひかりの森ホール> (河上) 24 第38回きょうだい会 <県福祉センター201> (新銀、辻本)
第14回兵庫県障害者芸術・文化祭(福祉大会) <県立芸術文化センター中ホール> (米) | <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 27 第14回兵庫県障害者芸術・文化祭芸術工芸作品公募展に係る選考会 <県立美術館 ギャラリー棟3階ギャラリー> (米) 3 第14回兵庫県障害者芸術・文化祭芸術工芸作品公募展・表彰式 <県立美術館 ギャラリー棟3階ギャラリー> (米) 5 県福祉センター入居団体連絡会議 <県福祉センター202> (石原)
臨時三役・家族会部会会議 <県福祉センター602> (※1) 6 西播地区こころの病家族教室 <宍粟市役所> (宍粟すぎの木家族会) 14 いこいの場ひょうご定例会 <県福祉センター602> 15 東播・淡路地区こころの病家族教室 <複合交流拠点ウィズあかし> (南部)
中播磨地区こころの病家族教室 <福崎町文化センター 小ホール> (米) 市町障害保健福祉担当課長会議 <のじぎく会館> (石原) |
| <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 8 東播磨・淡路地区精神保健福祉研修会 <南あわじ市役所3階会議室> (みはら家族会、米)
家族による家族学習会 担当者研修会準備会 <県福祉センター602> (河上) 12 「平成30年度精神障がい者の福祉施策に関する要望」に係る意見交換会 <県民会館1101号室> (米、南部、涌波、新銀) 14 いこいの場ひょうご定例会 <県福祉センター602>
家族による家族学習会担当者研修会 <県福祉センター102、103> (河上) | <ul style="list-style-type: none"> 16 県政150周年フィナーレイベント <兵庫県公館> (涌波) 22 ひょうご障害者福祉共同組合主催シンポジウム <姫路労働会館 多目的ホール> (本條、米) 27 第2回理事会 <県福祉センター201> (理事・監事・顧問) 17 近畿ブロック連絡会議 (米、涌波、南部) 19 50周年記念大会第1回ワーキンググループ会議 <県福祉センター201> (※2)
いこいの場ひょうご定例会 <県福祉センター602> 28 第39回きょうだい会 <県福祉センター201> (新銀、辻本) | |

※1 役員会 (2/6, 4/3) 県福祉センター 米・涌波・南部・新銀・大倉・河上・石原

※2 米・涌波・南部・新銀・大倉・佐伯・石原・伊東・長沢・藤田・山口・五十嵐・新銀茂・本條

編集後記

見つけました。『眠主主義』。「うつ」になったある作家が、自分を励ますために作った造語の一つ。これを見た、かの鎌田實先生いわく「うつ気味の人は、しっかり眠れることによってうつ状態から脱することができる」と。精神に何らかの疾患を持つ人も「よく眠れる」だけで症状はかなり落ち着き回復に向かうといわれる。人間の本能でもある「眠ること」、これができない人の何と多いことか。実は、私も追い求めていました。『眠主主義』(代田)